

木のストロー

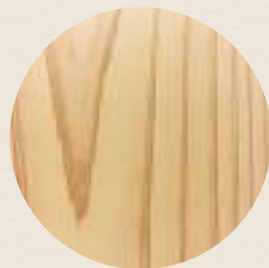
「木のストロー」は国産木材を0.15mm程度の極薄にスライスした木のシートを独自の加工で巻き上げて、ストローに仕上げたものです。



昨今のプラスチックストローの問題を踏まえて、実現した全く新しい商品となります。本物の木で作られているから、温かみがあり、食事時によりリラックスできるストローです。

日本の森から生まれた飲料を飲むときには、同じく日本の森から生まれた木のストローで。

KIND OF WOOD



辻井木材株式会社

〒601-8204 京都市南区久世東土川町10-1
TEL075-931-4810 FAX075-933-3008
【営業日】月～土曜日 AM8:30～PM5:00
【定休日】日曜・祝日

水を育む森から生まれた
木のストロー





水を育む森から生まれた 木のストロー

近年のアメリカやヨーロッパでは海洋汚染問題によるプラスチックストロー廃止の動きが活発となり、某コーヒーチェーンや某ファーストフードチェーンなどの企業がストローを廃止するということになりました。ストロー製造業界の市場の縮小が懸念される一方で、ストローを必要とする飲食業界では代替商品の開発が求められています

代替品の候補としては、竹製や木製の繰り返し使用可能なタイプのストローもありますが、ストローの筒の中の衛生面を考慮すると、飲食店での提供は使い切りタイプが好ましいこと、高級ホテルやレストランでは、紙製やわら製ではブランドイメージに合わないという課題をクリアするため、タイプ新しいストロー（木のストロー）が開発されました。

次世代のために、持続可能な社会のために、水と森の問題について少しだけ考えてみよう

森があるから水が生まれる

私たちが日々使用している水は、雨水だけ降ってもすぐ利用できる訳ではありません。森が降った雨（水）を一時的に土に蓄えることで、木々の光合成の際に蒸発させ、その残りを湧き水という形で過しながら川に流していく働きをしています。こうした重要な機能を持つことから「緑のダム」と呼ばれています。



日本の森林の4割は人工物

日本の森林の約4割は森林の機能を復活させるために戦後人工的に作った森（人工林）ですが、林業の衰退にともない、人の手で管理されることなく放置されている状況です。人工林は原生林と違いほったらかしにしてしまうと自然のサイクルが循環しなくなり、土砂災害の原因になることもあります。



緑の砂漠化

適切に整備されず放置された人工林は、見かけは立派な森ですが、土壌・下草が育たず、森としての保水・浄化能力がないハゲ山と同じ。人間の目からは緑がたくさんで豊かな森に見えても、実際は不健康な森のため「緑の砂漠」と呼ばれます。



木を買うことは緑を守ること

いまできるもっとも簡単なことは、できるだけ国産の木を買うこと。木の需要があれば不健康な森の木が伐(き)られ、光が差し込み、雨を受け入れられる健康な人工林へと整備されます。

